

野生きのこ栽培品種の育成と栽培技術の開発

福島県林業研究センター 林産資源部
平成15～18年度林業研究センター業務報告
分類コード 18-16-10000000

部門名 林業－食用きのこ－栽培方法
担当者 内山 寛

I 新技術の解説

1 要旨

ムキタケ・ブナハリタケは、直売所等にて高値で販売されており、地域の特産品の一つとして有望視されている。県内で採取した野生株を用いて栽培試験を行い優良な品種を選抜した。また、選抜した品種の栽培方法について、従来の栽培方法では、子実体に土の付着やナメクジ等の食害がみられたが、ホダ木を24時間浸水処理する浸水棚差し栽培によりこれらの被害を回避できた。

- (1) 当所における野生品種の栽培状況から、発生状況が良好なムキタケ17系統ブナハリタケ8系統を選抜し、その中でも特に発生量の多いムキタケ4系統、ブナハリタケ3系統を最終選抜とした。
- (2) 浸水棚差し栽培では、発生時期について浸水後20日程度で子実体が発生するため、計画的な栽培が可能になる。
- (3) 浸水棚差し栽培では、従来の方法で問題であった子実体への土の付着が回避でき、商品価値を高めることができる。
- (4) 浸水棚差し栽培では、ナメクジや害虫による食害を回避することができる。
- (5) 浸水棚差し栽培では、原木シイタケ栽培施設を活用することができるため、新たな投資を必要としない。

2 期待される効果

- (1) 農林業の複合経営の一つの作目として有効であり、農閑期の現金収入に役立つものと期待される。

3 適用範囲

きのこ栽培者、農林家

4 普及上の留意点

- (1) シイタケに比較し収穫までの期間が長くなるため、栽培施設の占有期間が長くなることから、計画的に発生操作を行うことが必要である。

II 具体的データ等

No	材積 (m ³)	発生量(kg/m ³)			合計
		2005年	2006年	2007年	
15	0.222	21.1	12.5	15.3	48.9
2	0.283	21.9	10.9	15	47.8
41	0.31	19.2	13.3	15.3	47.7
5	0.306	19.9	11.1	10.9	41.9
平均		7.9	5.6	6.2	19.7

注:四捨五入の端数処理の関係で合計は一致しない。

図-1 ムキタケ No.15子実体発生状況



No	材積 (m ³)	発生量(kg/m ³)			合計
		2005年	2006年	2007年	
11	0.288	20.2	14.7	13.5	48.4
12	0.291	11.3	12.4	16.1	39.9
16	0.34	9.6	14.9	13.9	38.4
平均		5.3	8.1	9.9	23.4

注:四捨五入の端数処理の関係で合計は一致しない。

図-2 ブナハリタケ No.11発生状況



発生方法	No. 2			No. 5	
	浸水	浸水	K	自然	自然
材積(m ³)	0.028	0.029	0.017	0.283	0.306
植菌年	22.16	8.04	22.14	-	-
2年目	54.04	65.56	80.57	21.92	19.91
計	76.2	73.6	102.71	21.92	19.91

注:1m³あたりの発生量。

図-3 ムキタケ浸水棚差し法



発生方法	No. 11		No. 12	
	浸水	浸水	自然	自然
材積	0.022	0.021	0.288	0.291
植菌年	5.66	-	-	-
2年目	43.34	72.04	20.19	11.33
計	49.01	72.04	20.19	11.33

注:1m³あたりの発生量。

図-4 ブナハリタケ浸水棚差し法



III その他

1 執筆者

内山寛

2 主な参考文献・資料

(1)なし